

## 持続可能な日本文化の継承を 美的価値を創出するインテリアデザイナー



### 澤山 乃莉子

Noriko SAWAYAMA

Noriko Sawayama Design  
& Associates Ltd.

Managing Director

<http://www.nstda-uk.com/>

CAとして世界を見てきたインテリアデザイナー澤山乃莉子氏。その美的感覚は、プロダクトだけではなく空間全体の価値を向上させるまでに発展した。2000年の歴史を紐解き、紡ぎ出された美的価値は、日本全体の価値までをも高めていく。

#### 時流を具現化する

#### インテリアデザインとの出会い

大学で地理学と博物館学を学んだので、世界を見て回れる仕事として日本航空国際線CAを選び、世界30カ国40都市を訪れました。そして世界中のホテルに宿泊したことで、ホテルそのものの文化や空間デザインに興味を湧き、ホテル西洋銀座開設準備室に転職。その後ホテルの人材並びにサービスマネジメントのコンサルティング会社を起業し、東京で10年に

具体化するために、必要なチームアツプを行い、プロジェクトを推進する役割を果たせるものと規定しています。

例えば新築1300㎡二戸建てプロジェクトであっても、クライアントの暮らし方の完成形から空間デザインをイメージできるインテリアデザイナーがブランドデザインを描き、建築家をはじめとするプロをチームアツプして具現化させていくことが一般的です。もちろん図面を引くことは必須です。空間が扱えない限り、またディテールを図面で伝えることができない限り、それはインテリアデザイナーとは言えないからです。

その職能領域は総合的で幅広く、明確なセオリーとメソッドの上になり立っています。一流として認められるデザイナーは膨大な知識と経験を

わたるキャリアを積みました。例えばホテルの従業員を250人体制から150人体制にするというミッシェンにおいては、学会でも学んだTA心理学や空間心理学を駆使し、一人ひとりの意識改革と能力向上によりカバーできる範囲を増やし、空間もそれに従い収益性の高いものに改善するなどして2年間で150人体制を達成したシリアスなものでしたが、それも含め、日本でのホテルコンサルとしての仕事は非常に順調でした。

しかし1995年に夫の転勤のため家族でイギリスに渡ったことをきっかけに、インテリアデザイン市場のダイナミズムに触れ、子供のころからのデザインDIYおたくに火がつきインテリアに方向転換。4年間大学やカレッジ、大学院で、インテリアデザイン、建築照明、ソフトウェアニシ

武器とします。それは作品を見れば明らかで、ギリシャ・ローマの時代から現在までの約2000年にわたる覇権史、建築史、装飾芸術史、美術史、音楽史、服飾史を含む芸術史全般への知識が試されます。

しかもデザイナーが勝負するのは、知識をそのまま取り出してくるコピーではなく、現代に生きるクライアントを軸にアレンジして抽出していくスキルです。こうして深い知識を背景に生み出される、何々風ではない唯一無二のデザインこそが英国人が最も大切にしているデザインの個性です。

残念ながら日本ではインテリアはセオリーとして扱われていません。それがインテリアを建築の下に位置付けてしまった大きな要因ともいえます。また生涯に家を3、4回引越す

グ、デコラティブペイント、フラワーアレンジメント、色彩学、アートディレクションなどを修め、建築デザインオフィスでの勤務の後、2001年にロンドンでデザインオフィスを起業。日英で住宅・ホテル・レストランの家具デザイン、デザインコンサルトなどを手掛けてきました。

デザインコンサルティングの分野では英国JETROのデザイン企業進出のアドバイザー、カリモク家具株式会社、長谷工アーベスタの長期優良住宅開発コンサルトなど、いずれも長期間にわたる契約に携わってきました。またホテルのデザインコンサルトとして、前職並びにデザイナーとしての実績と、欧州と日本で一流ホテルを見つけてきた経験を生かす仕事を日本でも手掛けています。

#### BIIDという世界最高峰のインテリア協会に参加して学んだこと

私が英国で所属するBIID (British Institute of interior design) が定めているインテリアデザイナーは日本にはない職能で、インテリア、建築、設備、デコレーション、アートディレクション、スタイリング分野を総合的にカバーし、自分の描いたデザインを

英国のライフスタイルを反映する不動産市場において、インテリアデザイナーは明快に資産価値を高めるプロフェッショナルとして重要な位置付けを得ています。職業として確立し、個人名を冠としたオフィスでビジネスを成功させ、絶大な影響力を誇りつつ業界を牽引します。

#### セオリー教育の必要性

プロ向けインテリアアカレッジ開校へ  
英国型職能職域を普及させるため、BIIDメンバーシップ取得を目指すプロ向けインテリアアカレッジ「澤山塾」を2012年に開校しました。これまでの3期で16名が卒業、全員がメンバー合格を果たし、仕事のやり方を転換しつつ目覚ましい成果を上げるようになってきました。

#### ■さわやま のりこ プロフィール

NSDAロンドンインテリアデザインオフィス代表  
インテリアデザイナー、デザインコンサルタント

BIID Member、RIBA Affiliate Member。日本デザインコンサルタント協会会員、日本インテリア学会会員。  
2000年にロンドンで起業以来、住宅・ホテル・レストラン・家具のデザイン大手の開発事業、それらに関するコンサルティング事業などを手掛け、2016年6月には歴代8人目となる「BIID Merit Award 2016」受賞、2016 D&D Award入賞等、日英での受賞や雑誌掲載も多数。長年にわたるプロ向け欧州トレンドレポート、プロ向けデザイン塾主宰など、執筆・教育・講演分野でも活動。日欧双方の視点からのデザイン各分野への提言は常に高い評価を得る。

#### 最近の講演における代表的トピック

- ・ロンドンオリンピックでデザインが創造した真のレガシーとは
- ・サステナブルの視点からロンドンデザインディストリクトの形成と日本のデザインツールの可能性を考える
- ・日本の伝統工芸を世界のインテリアシーンに。その事例と導入方法
- ・欧州トレンドセミナー ミラノ、ロンドン、パリ
- ・建築とインテリアの協業により業界の発展をもてなす文化が発展させたインテリア産業、イタリアと英国の事例から





そのきっかけはカリモク家具に執筆したインテリアセオリーでした。完全にプロ向けのレベルで44回にわたり掲載されたセオリーレッスンは、1カ所月間で最大37万ヒットを記録する人気を博しました。その内容をベースに、さらに数年かけてカリキュラムとして完成。それを英国のカレッジに持ちかけ提携。さらにそのカレッジと共に、ブリティッシュカウンシルが認めた1年間のInterior Design Professional Development Diplomaコースを完成させました。受講生は主に15年、20年の現場経験を持つコーディネーターや建築士で、11カ月間のスカイプ授業に続く1カ月間のロンドンでの集中講座でDiploma取得後、ロンドンでのBIID受験面接に臨みます。面接では50項目以上に及ぶインテリアデザイナーの職能を、書面並びに口頭で証明し、これを突破したプロには「BIID登録メンバー」という世界的に高く認知されたタイトルが授与されるのです。

英国を中心に全世界で1200名が登録するBIIDにおいて、2016年11月現在日本人正式メンバーは21名、下位メンバーを含め30名を突破し、英国型ビジネスモデル啓蒙のための活動をグループとして

行っています。また2016年11月には、そういった高い職能を持った日英のインテリアデザイナーと日本のクライアントをつなぐ仕組みを提供する協会を日本で立ち上げました。より素晴らしいインテリアが市場でロールモデルとなることで市場の拡大につながることは、世界最大といわれる英国の市場が証明しています。そして私が2017年から取り組むのは、プロの裾野を広げていくことです。澤山塾のメソッドをクラスターモジュール授業として、さらに多くのプロに受講していただけるカレッジを来年4月に発進します。こうしてインテリアをセオリーとして理解するプロによる大きなピラミッドを形成していくことが、市場の発展につながると思います。

2016年6月に、史上8人目のBIID Merit Award 2016をいただくという、身に余る荣誉に浴しました。審査基準はデザイン活動のクオリティ、業界での教育普及活動、BIIDへの貢献いずれにおいても著しい活躍が見られることとあり、16年間にわたりロンドンでビジネスを続けたこと、そして日英での教育普及活動、またBIID国際委員、国

際委員長、面接官、メンバーのリクルーティングとメンター活動などを評価していただいたの受賞でした。また、2016年9月には手掛けたロンドンでのプロジェクトが「The International Design & Architecture Awards 2016」で「洋の東西を融合したデザインはコスモポリタンシティロンドンにおけるテーマとして最もふさわしい」として入賞をいただきましたが、日本の伝統工芸品を融合させたデザインが評価されたことは、日本人デザイナーとしてこの上ない喜びです。「伝統の技術と文化を守り、それを未来に伝える」ことはサステイナブルの最も根幹的な哲学であり、持続可能な社会とは、暮らし方に帰結するものです。

社会の成熟度からいえば、日本も「美しい住環境の中で心豊かに暮らす」という価値観が生活の根幹となる時期に来ていると思います。その中で自分たちの何千年の文化を享受しながら生きることがどれほど心豊かであるか、またそれを誇りに思い、尊び、その作り手や産地を含め守っていくことがいかに尊いかということを発信していくことを、今後も自身の重要なテーマとして続けていきたいと思っています。

①ロンドンシティでのレストランデザイン

②ロンドン・ハムステッドの築150年500㎡住宅リノベーションプロジェクト。保護建築を建築当時に復元し最新機能と現代デザインに融合させる。建築、リノベーション、インテリアデザインの総合力が求められる。

③2016年6月19日BIID総会と授賞式の模様

④築150年の学校を住宅に改装した物件のデザインプロジェクト。洋の東西が融合したデザインスキームが評価された。